

2016 年度 JSFF 活動報告

概要

ハラスメントの予防と発生時の対応

2015 年度末に草案が示されたハラスメント規定を完成させ、正式運用を始めた。学連 HP に規定および対応マニュアルを掲載し、日本学連の公認および後援大会すべての大会要綱に、ハラスメント対策の文言を盛り込むようにした。

地区同士の交流活性化・草大会の推奨

遠征補助金制度を新設した。この制度は、草大会や社会人大会でホームエリア以外のフライトエリアへ行く際の交通費を補助するものであり、遠征の際にネックとなる金銭面の負担を軽減することを目的とした。この制度により、大会参加者の増加が見込まれ、草大会の盛り上がり期待できるほか大会を通じた地区間の交流が促進される。制度作りに時間がかかり、11 月ごろからの運用になったが、今年度の反響は上々であった。そのため、2017 年度には適用範囲を学連の公認大会にも適用範囲を広げることが 3 月の学連総会で議決された。

学連 HP の改良

長年更新されていなかった学連 HP（トップページ）を一新。スマホ対応をし、学連規約・ハラスメント規定の掲載、新歓ページの作成を行った。また、Twitter や facebook などの SNS の連携もを行い、学連の活動の透明化を目指した。

競技規定の改定

HG・PG 間で既定の表現や用語の統一をしたほか社会人大会と互換性を持つ競技規定の策定を目指した。HG・PG でクラス名を統一するため、PG のクラス名を 1st,2nd,open から、Expert,1st,2nd に変更したことが最も大きな変更点である。また、スマホで記録した GPS のログを公認大会で使用可能に変更したほか、PG—2nd クラスのルールにセットタイムを追加、HG リーグにフライトコンテスト部門を追加するなど、競技の幅を広げるような新ルールも策定した。

会計年度の変更

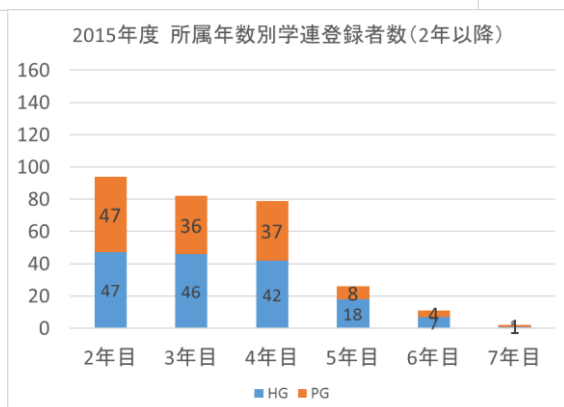
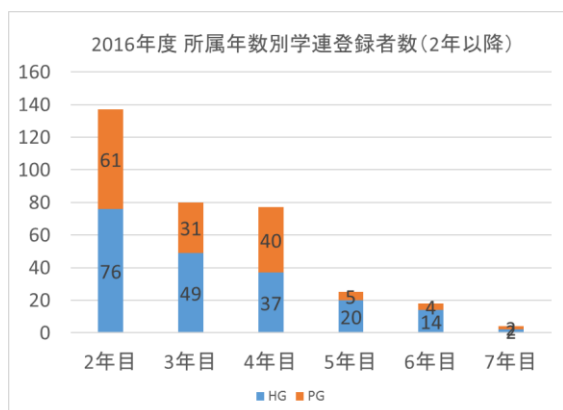
前年度までの会計では、3 月の学連総会でかかった交通費を 4 月に次年度予算で清算が行われていた。これにより、当年度予算額が前年度の交通費に依存していた。そのため、完全に 3 月末締めにし、交通費の清算を前年度の予算内に組み込み、単年度で完結させるようにした。学連総会での決算書類の議論には暫定版を用い、4 月時点で最終版を作成することとした。

2016年度事業

1) 学連登録（前年比）

- ア 学連登録数 341名（+47）
- イ 6地区、27団体（+1）、49大学（-2）
- ウ HG：198名（+37） / PG：143名（+

10)



2) 競技会の開催

ア HG：

- 1 2016年度全日本ハンググライダー学生選手権 in 足尾
2016年8月29日～9月1日
茨城県足尾山 選手40名参加（+9）
- 2 2016年度全日本学生龍門オープン
2017年2月21日～24日
和歌山県龍門山 選手28名参加（-12）
- 3 2016年度かつぱかつぷ

2017年3月9日～12日

福岡県耳納山 選手27名参加（+6）

4 ハンググライダー新人戦

2017年3月18日～19日

滋賀県荒神山 25名参加（+5）

イ PG：

1 尾神岳 Paraglider Student Cup 2015

2016年8月23日～25日

新潟県尾神岳 選手14名参加（-8）

2 新人戦 2016

2016年11月5日～6日

山形県十分一山 選手25名参加（+11）

3 第21回全日本パラグライダー学生選手権 in 足尾

2017年2月28日～3月3日

茨城県足尾山 選手21名参加（-15）

3) 合宿、講習会等の開催（地区学連含む）

ア HG/PG：

1 河川敷体験会

2016年4月9日～10日

東京都多摩川河川敷

2 鳥取砂丘合宿

2016年9月6日～9日

鳥取県鳥取砂丘 練習生95名参加（+4）

3 安全講習会（夏季冬季2回）

2016年6月28日、12月6日

東洋大学教室 各45名程度参加

イ HG：

1 トーイング講習会

2017年3月18日～19日

滋賀県荒神山

4) 草大会・その他

1 PINK CUP 2016

2016年10月24日～25日

山形県十分一山 HG37名 PG33名 (-21)

5) JHFに関する特記事項

ア 補助金 30万円受給

イ イベント補助

ウ JHF レポート執筆 (214～217号)

課題

学連 HP

HP をメンテナンスする技術のある学生がホームページ係になるまでメンテナンスが滞る、という状態は依然として続いている。

HPに大会の運営マニュアル、予算決算、活動計画、活動報告を掲載するなど、情報共有の場、社会人への発信の場としての活用をする。これにより、大学やサークルによらず同じ情報が得られるようにし、情報の伝達不足を補うほか、対外的な運営の透明化を図りたい。また、HG・PGで分断されているリーグのHPの統合も行いたい。

JPA・県連との交流

JPA や今まで学生大会を開催してこなかった地区の学生を JSFF の理事会に迎えることで、間接的に JPA や県連との交流を深めることを目指している。2016 年度には、副理事に JPA の学生を迎え、情報交換を行った。しかしながら効果を上げるには時間が必要であると考えられる。2017 年

度も引き続き副理事に JPA の学生を迎える予定である。

写真や動画などの、情報の共有と集積

競技の結果は HP 上に掲載されているが、大会の様子などを納めた写真などは個人あるいはサークル単位で保管されていてアクセスが難しい。有効に活用すれば大きな効果が期待できる。

パラグライダーの競技人口の減少

パラグライダーの大会参加者が減少し、夏の尾神では上越市の担当者に渋い顔をされ、春の足尾では、1st クラスが選手不足で不成立となる事態が発生した。積極的に広報するだけでなく、先輩から後輩へ競技の楽しさを伝えるとともに、大会を楽しめるルールや環境づくりを進めていきたい。

提案の吸い上げと精査

昨年度の課題にもあったが、多くの学生が普段の活動や大会の運営に不満や改善点を見出しているにもかかわらず、それが JSFF に届いていない、届いていても適切に処理されていないなどは依然として課題である。引き続き広報や大会を通じて JSFF の存在感を示しつつ、どのような提案をどのように処理したかを告知していく必要がある。

以上のことをふまえ、来年度の活動の指針作りに取り組んでいって欲しい。

2016 年度理事長 中山拓哉

